

平成26年第4回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成26年4月8日（火）

午後1時30分開会

| | | | |
|----------------|---|---|--|
| 開催日時 | 平成26年4月8日 | 開会 1時30分 閉会 2時38分 | |
| 場 所 | 小金井市役所第二庁舎 801会議室 | | |
| 出席委員 | 委員 長 鮎川志津子 委員 長職務代理者 福元 弘和 委 員 渡邊 恭秀 | 教 育 長 山本 修司 | |
| 欠席委員 | 委 員 岡村理栄子 | | |
| 説明のため出席した者の職氏名 | 学校教育部長 天野 建司 生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 石原 弘一 庶務課長 関 次郎 学務課長 鈴木 剛 学務課長補佐 河田 京子 指導室長補佐 高橋 良友 指導主事 平田 勇治 | 指導主事 丸山 智史 図書館長 上石 弘美 公民館長 前島 賢 庶務係長 中島 良浩 | |
| 調 製 | 中島 良浩 | | |
| 傍聴者人数 | 3名 | | |

| 日程 | 議 題 | |
|-----|-----------|--|
| 第 1 | | 会議録署名委員の指名 |
| 第 2 | 議案第 1 5 号 | 小金井市教育委員会事務局公文規程を廃止する規程 |
| 第 3 | 選 第 3 号 | 小金井市奨学資金運営委員会委員の推薦について |
| 第 4 | 報 告 事 項 | 1 平成 2 6 年度教育委員会の主な事業について 2 平成 2 6 年度学級編制について 3 寄附の収受について 4 小・中学校教育管理職及び教員の異動について 5 教育課程の届出報告及び小・中学校の年間予定について 6 平成 2 6 年度研究奨励校等について 7 その他 8 今後の日程 |

鮎川委員長

皆様こんにちは。

昨日、本日と入学式お疲れさまだった。また、きたまちセンターの開設の式典やイベントなど大成功のうちに無事に終わったこと、ほんとうにありがたいと思っている。

ただいまから平成 2 6 年第 4 回小金井市教育委員会定例会を開会する。

本日、岡村委員については欠席となっているが、本日の会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 3 条第 1 項の規定による在任委員の過半数の出席をいただいているので、会議を開き議決ができることを報告する。

日程第 1、会議録署名委員の指名。本日の会議録署名委員は、福元委員と渡邊委員に願います。

(委員一同異議なく、上記 2 名が選出された。)

鮎川委員長

次に、日程第 2、議案第 1 5 号、小金井市教育委員会事務局公文規程を廃止する規程についてを議題とする。

提案理由のご説明をお願いします。

山本教育長

提案理由についてご説明する。

訓令として新たに制定された小金井市公文規程が教育委員会事務局にも適用されることとなり、小金井市教育委員会事務局公文規程を廃止する必要があるため、本案を提出するものである。

細部については担当から説明するので、よろしくご審議の上、ご議決賜るようお願い申し上げます。

関庶務課長

それでは、説明する。

教育委員会事務局の公文書作成について規定している小金井市教育委員会事務局公文規程については、小金井市公文規程を準用するものであったが、このたび、新たに制定された小金井市公文規程が教育委員会事務局にも適用されることとなったことに伴い、準用を規定する必要がなくなったことから、小金井市教育委員会事務局公文規程を廃止するものである。

なお、廃止に伴い、小金井市立学校文書取扱規程の第11条第1項について、文言整理をする必要が生じ、議案書でお示ししているとおりの文言に改めるものである。

説明については以上である。

- 鮎川委員長 事務局の説明が終わった。何かご質問、ご意見はあるか。
- 福元委員長
職務代理者 今のお話だと、廃止するというので、何ら文書作成上問題等は発生しないと考えてよろしいか。
- 関庶務課長 そのとおりである。
- 福元委員長
職務代理者 わかった。
- 鮎川委員長 ほかにご質問、ご意見等あるか。
以上で、質疑を終了する。
それでは、お諮りする。議案第15号、小金井市教育委員会事務局公文規程を廃止する規程は、原案どおり可決することにご異議ないか。
- (委員一同異議なしの声)
- 鮎川委員長 異議なしと認める。
本案は原案どおり可決することを決定した。
次に、日程第3、選第3号、小金井市奨学資金運営委員会委員の推薦についてを議題とする。
提案理由を説明願う。
- 山本教育長 提案理由について、ご説明する。
教育委員会委員の任期満了に伴い、奨学資金運営委員会委員を解職されることから、小金井市奨学資金支給条例第6条の規定により、新たに委員を推薦する必要があるため、本案を提出するものである。
細部については、担当から説明するので、よろしくご審議の上、ご推薦賜るようお願い申し上げます。

広いご見識をお持ちでいらっしゃるの、ぜひお願いしたいと思う。

皆様、ほかにご意見がないようであるが、福元委員で異議なしということによろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 それでは、福元委員を小金井市奨学資金運営委員会委員として推薦することに決定する。

では、よろしく願います。

次に、日程第4、報告事項を議題とする。順次、担当からご説明願います。

天野学校
教育部長 それでは、報告事項1、平成26年度教育委員会の主な事業についてということで、学校教育部のほうから説明させていただく。初めに、私から総括的なお話をさせていただき、具体的な施策は各担当よりご説明させていただきたいと思う。

平成26年度の予算については、前回の委員会にて総括的なお話をさせていただいたところである。教育費全体では総額36億3,413万3,000円、前年度と比較して約5億9,000万円の減となっているが、耐震補強工事終了後の予算では例年並みの規模となっているところである。

学校教育部が所管する教育総務費、小学校費、中学校費で見ると、合計で対前年度約1億円の増となっている。主な要因としては、中学校費における学校建設費約1億5,000万円増となっている。

それでは、学校教育部における主要施策である。小金井市教育委員会では、教育目標及び基本方針に基づき、明日の小金井教育プランを策定しており、平成26年度は4年目の年度となっている。

この教育プランは、小金井らしさの醸成、教育の根幹をなす知育・徳育・体育の推進、そしてさまざまな施策を推進するための教育環境の整備、この3つの視点に17の取り組み、そして38の重点施策を推進していくことを目標とした中期的な計画である。平成26年度においては、大変厳しい財政状況の中、創意と工夫でこの計画を推進することとなっている。本日は、その一端を皆さんにご報告し、ご理解とご協力をお願いしたいと思う。

それでは、担当よりご説明するのでよろしく願います。

関庶務課長

それでは、庶務課から説明させていただく。平成26年度庶務課における主要な施策について、概略ではあるが説明する。

庶務課については、教育委員会の円滑な運営及び人、物、お金といった学校経営資源の有効活用による教育環境整備などを主に担っている課である。

それでは、平成26年度の庶務課の主要施策についてである。まず初めに、予算化はされてはいないが、教育委員会を取り巻く大きな社会的変動として、教育委員会制度改革への対応ということがある。関連法改正案が国会で提出されることから、にわかに現実味を帯びてきているところであり、したがって情報の収集及び検討、そして、準備が必要となってきたところである。

また、明日の小金井教育プランについても、現行の計画年度が23年度から27年度までとしているところから、その次の計画年度に向けての改定の準備をしていくことになるので、教育委員の皆様におかれても、その作成にかかわっていただくことになるので、ご協力をお願いしたい。

次に、施設面における主な事業であるが、学校施設は地域の防災拠点ともなることから、非構造部材等点検委託を行い、全小・中学校の屋内運動場の天井等落下防止対策の状況を中心に点検を行う。

次に、教育プランにおける重点施策である校庭の芝生化の推進についてである。平成26年度については、南中学校運動場芝生整備工事が予定されている。南中学校を芝生化することで、中学校では2校、小学校では4校の合計6校ということになる。

そのほかとしては、小学校トイレ改修工事として、市内4校のトイレの洋式化などのトイレ改修工事を実施する。

また、昨年9月から小学校の給食調理業務について5校を民間委託したが、中学校を含めて、給食調理業務を委託したことにより生み出された財源をもとに、給食に関連する施設の改修工事も行う。

学校施設の改修工事や修繕については、多額の予算を伴うものであり、市の厳しい財政状況においては全てを賄い切れるものではないが、限られた財源の中で、国や東京都からの補助金を有効的に活用しながら、児童・生徒のための快適な教育環境づくりに努めていきたいと思っているところである。

庶務課については以上である。

鈴木学務課長 次に学務課より、平成26年度教育委員会の主な事業についてご報告させていただく。学務課については、さまざまな学校における活動をサポートするため、学校と連携している課である。

学務課では、中学校の特別支援学校の生徒へGPSを貸与しているところである。市民の方との意見交換でもご意見があった、スクールバス利用者以外の特別支援学級の固定級に通学する児童まで利用範囲を拡大することについては、自立登校で頑張っているお子さんについても、安全な登下校の一助となると考え、予算化し、今年度から希望者に貸与することとした。

また、発達支援事業と就学相談の連携など、特別支援教育の推進として、児童発達支援センター「きらり」との就学相談に関する連携、就学前から就学後へのつながりを充実していきたいと考えている。

次に、学校給食での取組についてである。食育の推進については、学校での食育の推進とともに、家庭における食生活の大切さの理解を図るとともに、地産地消についても各学校ともに推進していきたいと考えている。

また、食物アレルギー対策については、全教職員共通認識のもと、食物アレルギー対応基準等に沿って確実に対応していくため、改めて周知していく。給食の運営については、平成26年度学校給食に関する新たな取組について、試食会の開催、給食への市民参加、学校給食運営協議会を設置し、進めていく。

大型備品等に関しては、食器消毒保管庫、献立の充実を図るためのスチームコンベクションオーブン、米飯給食の推進のための立式炊飯器の導入を計画しており、進めていく。今後も長期的な計画を含め、給食の改善に努めていきたいと考えている。

これらの事業を推進し、小金井の安全でおいしく温かい給食の提供に努めさせていただきたいと思う。以上である。

高橋指導 続いて指導室から平成26年度の主な取組について、2点報告する。

室長補佐 1点目である。学校・家庭・地域との連携である。学校・家庭・地域の連携強化に向けた学校地域支援本部の充実や、各校が目標として定める特色ある教育活動を充実させることで、明日の小金井教育プランに示される小金井らしさの醸造や教育環境の整備を推進

していく。

2点目である。知・徳・体の調和のとれた生きる基礎を培う教育活動である。子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、小金井市が授業改善のポイントとして示した、「わかる・できる・活かす」授業改善についての指導助言の充実や、小金井市の各学校が取り組む研究奨励事業等を活用した校内研究を充実させることで、教員の授業力を高める学校づくりの支援などに取り組み、明日の小金井教育プランに示される知育・徳育・体育を推進していく。

報告は以上である。

天野学校
教育部長

学校教育部は以上である。

鮎川委員長

では、続いて生涯学習部について、お願いします。

西田生涯
学習部長

それでは、生涯学習部における平成26年度予算歳出についての概要を報告させていただく。前回の委員会で説明したとおり生涯学習部は、社会教育費及び保健体育費を所管している。社会教育費全体では、7億8,947万7,000円、対前年度比約5.74億円の減、保健体育費で3億3,042万5,000円、対前年度比約1.1億円の減となった。こちらについては、主に本年4月1日に開設された貫井北センター建設工事に係る経費、そして事業がもう既に終了したスポーツ祭東京2013の事業費といったものの皆減によるものである。

平成26年度の生涯学習部の予算方針であるが、平成26年1月14日に提出をさせていただき、ご議決をいただいた小金井市教育委員会の基本方針及び平成26年度教育施策についての中、基本方針4、生涯学習と文化・スポーツの振興の中で、市民一人一人が生涯にわたって学び、その成果を社会に還元できるようにするとともに、次代を担う子どもたちの健やかな成長を社会全体で支えることが求められる。そのために学校、家庭、地域の教育力を高め、その連携が進むように支援するとともに、市民が生涯を通じて自ら学び、文化・スポーツに親しみ、社会参加できる機会の充実を図る、こういった基本方針のもと、26年度の施策として、こちらのほうでは、生涯学習の推進、青少年教育の推進、スポーツ、レクリエーション

活動の推進、公民館の充実、図書館の充実、社会教育施設の充実という施策を掲げているところである。それに従い、各課において、平成26年度の予算を編成させていただいた。

それでは、詳細については各課のほうから説明をさせていただく。

石原生涯
学習課長

それでは生涯学習課から説明させて頂く。生涯学習課においては、生涯学習全般、また文化財、それからスポーツ、主にその3つの事業を担当している課である。主な事業について、市の編さん事業として、有料で皆様に頒布している『小金井市の歴史散歩』及び国名勝の小金井桜『桜絵巻』の残部が、好評につき少なくなったことから増刷するものである。

放課後子どもプランについては、各小学校区において行われている子どものための事業をコーディネーターの人数増に応じて充実させる予算となっている。

それから、文化財の保存事業としては、貫井南町にある閻魔堂木造閻魔王坐像を殺菌殺虫するための保存に要する経費について、市費で一部負担をするものである。

それから、資料にはないが、文化財の事業として、全庁を挙げ、玉川上水の名勝小金井桜の復活プロジェクトに取り組んでいるところであり、こちらのプロジェクトに基づいて人道橋の架設に向けた歩道橋の撤去、また桜の補植について行っていく予定となっている。これについては、生涯学習課の予算以外にも道路管理課、環境政策課にも予算計上されているところである。

チャレンジデー事業として、5月の最終水曜日、5月28日になるが、継続して15分間以上運動をされた方の参加率の多さを小金井市と同規模の自治体との間で競っていく事業で、小金井市としては、初めて取り組む事業となっていくので、こちらのほうはなるべく多くの参加を募りながら、スポーツに対する一大ムーブメントとしていきたいと考えているところである。

野球バックネットの改修、総合体育館、それから、栗山公園の温水ヒーター改修工事については、それぞれスポーツに関する事業であり、野球バックネットの改修工事については、近隣へボールの飛球などにより被害が及ばないように、のびのびとスポーツをやっていただくために取り組む改修工事である。

総合体育館と栗山公園の健康運動センターについては、築20年

以上が経過しており、改修が必要な部分も出てきている状況であるので、こちらを長く皆様に親しまれるように活用していくために、部分的に、年次ごとに改修工事に取り組んでいくものである。

生涯学習課については以上である。

上石図書館長 次に図書館から説明させていただく。図書館運営に関しては、まず資料、人、施設といった3要素がある。その中で一番の資料ということで、図書購入事業を挙げている。

魅力ある蔵書構成をするためには、資料費が必ず不可欠になっている。毎年2万冊を購入しており、魅力ある蔵書構成に努めているが、今年は26年4月に開館した貫井北分室があるので、5,000冊を増冊しているが、こちらのほうは5万6,000冊収容する蔵書構成力を持っているが、4万冊でオープンしている。まだまだ足りないということで、今年は5,000冊分の予算を措置し、図書の充実に向けて努力し、よりよい図書館をつくっていきたいと考えている。

ほかに点字講習会、児童のおはなし講座などがあるが、そちらのほうは例年どおりであり、点字講習会に関しては隔年ではあるが、対面朗読と点字講習会をやっている。

以上である。

前島公民館長 次に公民館から説明させていただく。初めに、委員の皆様方におかれては、4月1日の貫井北センター開設記念式典にご列席いただき感謝する。また、4月6日の開設記念イベントにもお越しいただきありがたく思う。まだ、きたまちセンターの公民館部分については、4月16日からの貸し出し開始となっているので、きたまちセンターの様子については、図書館も併せて改めてご報告させていただきたいと思う。

公民館の平成26年度の主な事業として2つ挙げさせていただいている。

1つはオープンした貫井北センターの運営委託である。23年ぶりに新設された地域センターであることや、市民の憩いの場として、また、生涯学習の拠点として市民協働による運営を実施していく予定である。公民館としても、活発な生涯学習の場となるようバックアップに努めていく。

次に、貫井南センター内窓設置工事である。本工事は、隣接する市民の方への配慮から、貫井南センター内の一部を二重窓とし、センターから出る音を遮断するものである。

以上である。

鮎川委員長 報告事項であるので協議するものではないが、何かご意見、ご質問などはあるか。

福元委員長
職務代理者 学務課から給食の市民参加の委員会を設置するとあったが、給食については小金井市はどちらかというと随分進んでいる市だろうと思うが、市民参加でもって一番期待しておられることはどういうことなのか、その点を教えていただきたい。

天野学校
教育部長 今回、小金井市の給食は新しい経営ということを掲げている。それで、給食をどんどん見える化し、市民協働、公民連携による市内14校の給食の質の向上を掲げているところである。つまり、たくさんの方たちに小金井の給食のすばらしさを知っていただき、小金井の給食に注目していただき、充実していくことである。以上である。

福元委員長
職務代理者 わかった。

渡邊委員 屋内運動場等の点検を重点的に行うと書いてあるが、これは体育館のことだろうか。それと、もしそれ以外の部分で、昔、偽装事件があった。そのとき学校の設備等をいろいろ点検されたと思うが、その結果はどうだったのか、2点お願いします。

関庶務課長 まず、天井等の点検場所については体育館、この辺を中心にしてある。これは、もちろん学校生徒の授業の安全のためでもあるが、避難してこられた方の場所にもなるので、東日本大震災を例に挙げるまでもなく、実際に屋根からいろいろ物が落ちこちてきて使えなかった事例もあったので、これは文部科学省から点検について、屋内運動場は速やかな実施という通達があるので点検を行うものである。

あと、体育館を中心に、あとは設計してみて、実際に予算の範囲内で、そこを中心にできる限り、それ以外の学校の校舎の天井とかもやれるところはやっていきたいとは思っているところである。

以前の偽装問題については、学校施設においては問題はなかったものとお答えさせていただく。

渡邊委員 わかった。

鮎川委員長 ほかにご意見、ご質問等あるか。

渡邊委員 チャレンジデー事業は新規事業だが、5月の最終水曜日というのは、団体が決めた日にちなのか。

西田生涯
学習部長 そのチャレンジデーを主催している団体が決めた日付けであり、世界中なイベントとなっている。日程は変えることはできない。

渡邊委員 わかった。

鮎川委員長 それに関連して、私も1つよろしいか。このチャレンジデーは小金井市では、何か特別なイベントはお考えだろうか。

西田生涯
学習部長 こちらについては、地域型総合スポーツクラブの黄金井倶楽部というところに委託をして、やっていくことになる。準備作業を今までしてきたが、基本的に動いていくのは予算措置後、この4月からということになるので、これから大急ぎでやらなければならない。

鮎川委員長 わかった。

ほかにご質問あるか。私からもう一つだけ質問してよいか。校庭の芝生化について、中学校では東中学校は一部芝生化だったと思う。本年度予算の南中学校は全面芝生化なのか、それとも一部か。

関庶務課長 芝生施工する面積については、東中学校と同様に、全面ではなくトラックの周りの部分を芝生化するところである。小学校は全面芝生なのだが、1つの理由としては、小学校の児童と中学校の生徒の体格差によって踏み圧の問題もあるので、全面芝生化することにな

ると、中学生の場合は傷んでしまうこともあるので、全面芝生ではなく、東中学校と同様に一部の芝生化というところを考えている。

鮎川委員長 わかった。

西田生涯
学習部長 先ほどのお答えの中で誤解をしてしまうといけないので、渡邊委員のご質問にお答えして、世界的な事業だということは、確かに世界的にやっているようであるが、世界的に5月の第3水曜日かというところまでは確認はできていない。ただ、日本では5月の最終水曜日でやっているということである。

鮎川委員長 では、ほかに何かご質問、ご意見あるか。
それでは、次の報告事項2、平成26年度学級編制について、お願いします。

鈴木学務課長 それでは、報告事項2、平成26年度学級編制状況についてご報告させていただきます。

本日お配りしている資料をごらんいただければと思う。表面の平成26年度学級編制状況についてである。確定は、本日の中学校入学式をもって確定となり各校の報告により確定することから、学級編制基準である4月7日の状況を報告させていただく。なお、本日中に変更が生じた場合については、後日改めて資料配付をさせていただき、報告にかえさせていただきたい。裏面は参考として、私学の学校等に入学した新1年生調べと通級指導学級の状況となっている。

なお、本年度の学級編制状況については、昨年度改正された東京都公立小学校、中学校及び中等教育学校前期課程の学級編制基準により、小学校1年生、2年生、中学校1年生が35人編制、または少人数指導やチームティーチング、いわゆるTTと呼ばれるものによる、教員の加配選択できる制度となっている。

4月7日の内容となるが、前年度と比較すると、小学校では通常の学級で児童が18人増となっている。学級数も2学級の減少となっている。また、中学校は通常の学級で生徒は20人減少しており、学級数については67学級で変更はなかった。

特徴としては、小学校で2人から30人の間で児童数の減少とな

っている一方で、5人から44人の間で児童数の増加となった学校も5校ある。通常の学級、1学級の平均児童・生徒数は、小学校では31.58人と、昨年とほぼ同数になっている。中学校については、34.80人、昨年度と比べて1%減となっている。

なお、小学校2年生の35人学級では、第四小学校、本町小学校が学級規模縮小で対応、緑小学校ではTT、また第一中学校ではTTや少人数指導を活用、中1の35人学級では第二中学校が学級規模縮小とすることとなった。

特別支援学級については小学校で2人増、中学校で11人の増加となっている。学級数は中学校で2学級の減となっている。なお、児童・生徒数は在籍者から小学校4人、中学校1人の学級編制算定対象者を控除した数値となっている。

次に裏面になる。国立学校等に入学した新1年生調べである。平成26年度は小学校で54人が国立、私立学校等及び特別支援学級へ入学している。新1年生の全体の6.3%を占めたままだったが0.1%減となっている。特別支援学級、学校を除いた国立、私立等に入学した方の割合は、平成25年度が6.4%、平成26年度では0.2%とわずかに減少している。中学校では国立、私立、特別支援学校等へ183人が入学しており、全体の20.4%を占めている。特別支援学校を除いた国立、私立等に進学した割合は、平成25年度の18.8%から20.0%に増加し1.2%ほど増加となっている。なお、都立一貫校へ入学した人数については、昨年度より8人増加している。

最後となるが、参考までに、平成26年度通級指導学級の状況を掲載した。詳細については、資料をごらんいただきたいと思う。以上である。

鮎川委員長

何かご質問、ご意見あるか。

山本教育長

裏面の上のほうの表であるが、数字がちょっと合わないと思うが、中学校の、市立以外に行った生徒の割合が、平成25年度は19.0%で、平成26年度は20.4%なので、1.4%増ではないかと思うが、マイナス2%になっているけれども、この数値は合っているか。

鈴木学務課長　　この数字だが、特別支援学級を除いた数での数字になっておるので、市立以外の割合のところは含まれた数字での計算になっている。

山本教育長　　私は中学校の校長をずっとやっていて、常に市内の市立中学校に入ってくる生徒の数が減っているか増えているかというのは非常に大きな関心事だった。小金井市はそれがほかの市に比べて非常に少なく、市立中学校の信頼度が高いんだとの根拠にしていた数字なので、そこを明確にしていただけるとありがたい。この表でも、グラフでも。それで、20%を超えたか、超えなかったのか。

鮎川委員長　　この20.4%というのは、特別支援学級も含まれているのか。

鈴木学務課長　　特別支援学級も含まれた数字になる。

鮎川委員長　　5名を加えた数字が、この20.4%ということか。

鈴木学務課長　　確認させていただきたい。

山本教育長　　後でもう1回詳しく示していただければ。ここではいい。

鈴木学務課長　　また改めてお示しさせていただく。

鮎川委員長　　それでは、後日、よろしく願います。
ほかに何か。

渡邊委員　　先日、学区外でも通学できるという話を聞いたが、この中で小・中学校でどのぐらいいるのか、学区外から通っているお子さん、生徒の数は。

鈴木学務課長　　お調べする時間をいただけるか。

渡邊委員　　後で、示していただきたい。

鮎川委員長 では、また後日お願いします。ほかにご質問、何か、ご意見よろしいか。

 では、次に移る。報告事項3、寄附の収受についてお願いします。

鈴木学務課長 報告事項3、寄附の収受についてご報告をさせていただく。本日、資料を配付させていただいている。資料にあるとおり、平成25年度は、まず南小学校に3件、朋愛幼稚園様から跳び箱を、シルバー人材センター様と匿名希望の方から箏の寄附をいただいている。また、下敷きはトラック協会様から、ランドセルカバーは東京小金井サイオンズクラブ様からそれぞれ新入学児童に寄附いただいている。今年度についても、ランドセルカバー及び下敷きは学校を通じて新入学児童に配布させていただいている。

 以上である。

鮎川委員長 何かご質問、ご意見あるか。

 お箏をいただけるというのはとてもありがたいことだと思う。連合音楽会や学校の音楽会、学習発表会の場で、お箏の演奏を拝見し、とてもすばらしいことだと思う。ご寄附くださった方に感謝申し上げます。

 では、続いて、報告事項4、小・中学校教育管理職及び教員の異動についてお願いします。

高橋指導室長補佐 小・中学校教育管理職及び教員の異動についての報告させていただく。詳しくは報告事項4の資料をごらんいただきたい。1枚目に管理職の異動について示されている。それから、2枚目、3枚目に小・中学校別の教員の異動について示している。詳しくはご確認いただきたい。報告は以上である。

鮎川委員長 何かご質問、ご意見あるか。よろしいか。

 では、報告事項5、教育課程の届出報告及び小・中学校の年間予定についてお願いします。

平田指導主事 教育課程の届出報告及び小・中学校の年間予定について報告する。平成26年2月26日から3月14日にかけて、市立小・中学校14校の教育課程を受理した。配付した資料は、平成26年度教育課

程のまとめになる。平成26年度は小学校で学習指導要領の完全実施から4年目、中学校では学習指導要領の完全実施の3年目となる。全小・中学校が学習指導要領の理念と、明日の小金井教育プランの計画に基づき作成した教育施策、主要事業を具現化するように、学校や地域の実態を踏まえ、創意工夫をした教育課程を編成することを指導してまいった。

平成26年度の小金井市教育委員会の重点としては、学校・家庭・地域との連携、知・徳・体の調和のとれた生きる力の基盤を培うの2点とした。各学校の教育課程では、この2点について児童・生徒の実態や地域の特色等を踏まえ、具体的な取り組みが示されている。各学校の教育課程編成上の工夫としては、地域人材や学校ボランティアを生かした学習支援の充実を図る学校、学校公開授業やセーフティ教室等、土曜日の授業を充実させ、家庭や地域との連携を図る学校も見られる。今年度も市立小・中学校においては、学校の教育目標の具現化に向けた特色ある教育活動が展開されることが期待される。教育委員会としても、校長会や副校長会、教務主任研修会や学校訪問の機会を活用して、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の推進、教育課程の適正な進行管理について指導をしていく所存である。報告は以上である。

鮎川委員長 何かご質問、ご意見あるか。

福元委員 ICT機器というのを挙げているのが9校ほどあるけれども、PC以外にはどんなものを研究の中で取り入れているのか、ちょっと教えていただきたい。

平田指導主事 パソコン以外のものとして活用されているものとしては、大型テレビを活用している。大型テレビを電子黒板として使った例や、教材提示装置を接続して、手元にある資料を大きく画面に映し出して、児童・生徒に見せていく、そういった使い方をしている。

福元委員 当然それにかかわる機器の購入を要望してくるというのは多いのか。

平田指導主事 各学校ともそういった機器の、校内の整備のほうに大変関心を持

っている。一番最近だと、パソコン室の機器の入れかえのときに、今はパソコン室以外に教室でも使えるような、先ほどの教材を提示する実物投影機とかいったものも整備するようにしている。パソコン室の入れかえ以外するときになると、学校の持っている予算を生かして、そういった機器の整備をしているところである。

福元委員 学校配賦の予算の中から考えているのが大部分だということか。

平田指導主事 そうである。

福元委員 わかった。

鮎川委員長 ほかにご質問、ご意見等いかがか。
福元先生、校長先生のご経験から何かご助言等いただけるか。

福元委員 いやいや、助言はないが、学校がこれだけよく考えて、この問題に取り組んでいる。ところが、学校の中だけでは、技術的についていけないものもあろうかと思う。そういうものを学校側が指導を受けるような場というのは、今の小金井の現状の場合、どんなものがあるのか。

平田指導主事 そういったコンピューターの使い方であったり、ソフトウェアの操作方法等であるが、コンピューター支援員という支援員が本市に3名いる。その3名に依頼すると、さまざまな使い方であったり、例えばエクセルという表計算のソフトがあるが、それを使って集計するプログラムをつくってほしい、そういった要望にも応えることができるようになってきている。コンピューター支援員のほうは各学校から来てくれという依頼を出すとすぐ駆けつけるようになってるので、レスポンスよく、学校のニーズに合わせた活動、ICTを活用した活動が進むようになってきている。

福元委員 指導員の方が電子黒板とかテレビとか、そういうものも含めて指導してくれるという受けとめ方でいいのか。

平田指導主事 そのとおりである。

福元委員 わかった。

鮎川委員長 ほかに何かご意見等、ご質問あるか。

福元委員 小金井市で地域の力を活用してというのが前面に出てきていて、非常にいいなと思うが、地域の人材を活用するというので、やっぱり難しい面もあろうかと思う。1つは、人材をどう選ぶかという問題と、それから、どういう教育内容の中で外部指導員を入れて、地域の方と連携してやっていくかという点も、学校は相当苦慮しながらやっていると思うが、よくやっているなというような学校の例が1つでもあったら教えてほしい。

平田指導主事 昨年度より地域連携事業協力校として、第一小学校と緑中学校が研究をしてみいました。この2校の例をご紹介したいと思う。

まず、小金井第一小学校においては、学校の中に地域連携を推進する組織をつくった。その組織の中に、地域コーディネーターという、コーディネーター役の人を2人立てた。地域コーディネーターの人が外部の人選等、いい人材を呼んできて、学校の中での活動や、スケジュール管理等をスムーズにできるようにコーディネートしている。地域人材は、第一小学校でどのような活動をしているかと申すと、12名の地域人材の方が、保護者以外の方が第一小学校の中で学習支援員としてボランティアをしている。教室の中では学習面などで、配慮が必要なお子さんがおり、そういった子どもに学習支援員がついて、授業の補佐を、補助的なことを行っていくということをしている。目的といたしましては、最終的には学力向上ということに向けて取り組んでいるところである。

続いて、緑中学校の例だと、やはり地域のコーディネーターの方を1人選出して、その方が緑中学校の中における、放課後の子どもの居場所づくりということで、放課後カフェというものを運営している。その地域の方がカフェのマスターという役になるが、部活に参加してなく、また、学校が終わってから居場所のない子どもたちがそこに集って、いろいろ自分の悩み事を打ち明けたり、また今後の進路についての話をしたり、そういった取り組みをしているところである。

福元委員 わかった。

鮎川委員長 ほかにご意見、ご質問等あるか。

私から1つだけ伺ってよいか。授業日数、授業時数などについて、弾力的な運用ということで、学校間で差がある。長期休暇に関しても夏休みが緑中だけ3日少なく、土日を挟むので見た目は5日早く夏休みが終わるような形だ。特色ある教育ということでは、弾力的な運用はよいかと思うのだが、公教育というところでは、ある程度公平感というのにも必要かと思う。保護者の方やお子さまたちから、例えばあの学校は夏休みが短いとか、逆に、うちの学校は授業時数が少なくて大丈夫かとか、そのようなご意見・ご不安はないのか。

平田指導主事 まず日数の違いと授業時数の違いというところを説明する。

緑中学校は3日夏休みが早く終わってしまうという点であるが、1週間の教育課程をつくっていく上での、1週間の授業のこま数がほかの、第一中学校や南中学校、東中学校とは違う。1週間で29こまという授業で行っている中学校と、28こまという授業で行って学校がある。その28こまの学校、緑中学校はその分こま数が1こま少ないから、年間だと35こま少ない。その分をどうしても夏休みに登校するというふうにしている。決して日数が少ないから授業時間数が少ないというわけではない。

また、29こまと28こまの中学校がなぜあるかというところだが、緑中学校は学級数が非常に多い学校で、29こまにするというのは、スケジュールを組むのが非常に難しいということで、今、28こま、正確に言うと28.何こまぐらいで、授業を行っている。

子どもたちの中から、じゃ、うちの学校は日数が多くて損だとか、いいとかいうような意見があるかということだが、特に教育委員会のほうにそういった意見というのは来てない。中学校は既に部活動等で土曜日だったり日曜日の登校数が非常に多いので、特に大きな問題にはなっていないと考えている。

鮎川委員長 わかった。緑中の教務主任の先生が時間割を組むのにご苦労されていたことを今思い出した。

では、続いて、報告事項6、平成26年度研究奨励校等について

願います。

平田指導主事 平成26年度小金井市教育委員会研究奨励校等について報告する。
報告事項6資料をごらんいただきたい。

資料にあるように、平成26年度の研究奨励校は2校である。2年目になる小金井第一小学校は「自ら運動に親しみ、進んで健康・体力づくりに取り組む児童の育成」について、2月19日に研究発表を行う予定である。今年度、新たに東小学校を研究奨励校として指定した。

続いて、「わかる・できる・活かす」授業改善推進指定校も2校である。2年目になる小金井第二小学校は健康活動に焦点を当て、「コミュニケーション能力の向上～国語科学習を土台にして～」について10月24日に研究発表会を行う予定である。今年度新たに前原小学校を「わかる・できる・活かす」授業改善推進指定校に指定した。そのほか、学校・家庭・地域との連携について研究を行う学校を地域連携事業協力校として小金井第一小学校、小金井第三小学校、小金井第四小学校、南小学校、緑中学校の5校を指定した。

東京都のオリンピック教育推進校として、小金井第一小学校、小金井第三小学校、南小学校、南中学校、小学校3校、中学校1校、合計4校が指定され、体力向上及びオリンピック教育の研究に取り組んでまいる。

東京都の理数フロンティア校として、平成25年度に引き続き、南小学校と緑中学校が指定され、先進的な理数教育の取り組みの研究をしてまいる。

続いて、東京都の言語能力向上拠点校として東小学校が指定され、小金井市における言語能力向上についての研究と発信をしてまいる。また、東小学校は平成26年度教職大学院連携協力校に指定されている。教職大学院大学院生の教育実習を担当していただく予定である。

報告は以上である。

鮎川委員長 ありがとう。ご質問等、ご意見等はあるか。よろしいか。

この地域連携事業協力校は昨年度2校とおっしゃっていたが、今年は増えたのか。

平田指導主事 そうである。

鮎川委員長 わかった。他にあるか。

福元委員 小・中合わせてわずか14校しかない小金井市で、これだけの学校が奨励校を希望しながらやっているという、これは非常にありがたいことだと思う。この協力校を希望するに当たり、希望してもできなかった学校というのは結構あるのか。それともうまくおさまったという感じなのか。

平田指導主事 まず、オリンピック教育推進校以外のものについては希望した学校が全て指定されたという状況である。オリンピック教育推進校は、さらに小学校が2校、中学校が1校希望を出していたが、東京都のほうで枠があって、その枠から漏れてしまって受けることができなかったということがあった。

福元委員 非常にうれしいことである。学校が前向きに取り組んでいるということだから。

渡邊委員 教職大学院連携協力校とあるが、これは、特定の大学なのか、それともいろいろな、要望された大学全てなのか。

平田指導主事 教職大学院の大学院が特定されているかどうかというところだが、主に東京都の中にある教職大学院を設置している大学が担当する学校になっている。しかしながら、小金井市としては、近くに東京学芸大学があるので、ぜひ学芸大学の大学院と連携したいという希望を東京都に出したところ、学芸大学の学生が来ることになった。

渡邊委員 わかった。

鮎川委員長 では、報告事項7、その他、学校教育部からほかに報告事項があれば、報告をお願いします。

鈴木学務課長 済まない、先ほどご質問があった学級編制の関係だが、一部資料の訂正をお願いしたいと思う。先ほどの裏面の、国立・私立等に入

学した新1年生調べの中学校の増減の一番右側の下段のところだが、市立以外の割合のところ、マイナス2.0%となっておるが、マイナス1.4%に修正をお願いする。それから、先ほどご質問があった、国立・私立等に進学した割合だが、前年度が18.8%、今年度が20%で、1.2%ほど減ということになる。

それから、学区域外からの、他市から通ってこられている小学生の方は1名、それから、中学校が5名、他市から小金井市のほうにいらっしゃっている方の小学生が4名と中学校が5名ということである。以上である。

鮎川委員長 急な質問にも、早々のお答えをありがとう。

鈴木学務課長 表のほうは、ここの中でいくと、今、私のほうでお答えさせていただいたのは通常学級の場合の人数を口頭で説明させていただいて、ここ表のところは、特別支援学級も含まれている形の割合のところになるので、特別支援学級を除いた国立・私立等に進学した割合については、表に載ってないものを口頭で説明させていただいた。わかりづらくて、申しわけない。

山本教育長 マイナス1.4じゃなくて、プラス1.4じゃないのか。

鈴木学務課長 濟まない。マイナスじゃなくて、プラスのほうである。

山本教育長 プラス1.4。

鈴木学務課長 濟まない。

山本教育長 わかった。

鮎川委員長 よろしいか。
では、どうもありがとう。学校教育部からはほかによろしいか。

天野学校
教育部長 ない。

鮎川委員長 生涯学習部からほかに報告事項があればお願いする。

西田生涯
学習部長 ない。

鮎川委員長 報告事項 8、今後の日程について、ご報告お願いする。

関庶務課長 今後の日程について説明する。資料をごらんいただきたい。まず、平成 26 年度教育施策連絡協議会は 4 月 10 日木曜日、午後 1 時半から 4 時半まで東京都庁第一本庁舎の 5 階大会議場で行われる。全員の出席をお願いする。

東京都市町村教育委員会連合会第 1 回理事会は 5 月 1 日木曜日、午後 2 時から東京自治会館大会議室で行われる。こちらについては、委員長の出席をお願いする。

第 5 回教育委員会定例会は 5 月 13 日火曜日、午後 1 時半から 8 01 会議室で行う。全員の出席をお願いする。

平成 26 年度関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会（長野大会）は 5 月 16 日金曜日、午後 1 時から午後 4 時 20 分、長野県長野市ホクト文化ホールにて行う。全員の出席をお願いする。

東京都市町村教育委員会連合会第 58 回定期総会は 5 月 22 日木曜日、午後 2 時から東京自治会館講堂で行われる。全員の出席をお願いする。

第 6 回教育委員会定例会は 5 月 27 日火曜日、午後 1 時半から 8 01 会議室で行われる。全員の出席をお願いする。

第 7 回教育委員会定例会は 7 月 8 日火曜日、午後 1 時半から 8 01 会議室で行う。全員の出席をお願いする。

今後の日程については以上である。

鮎川委員長 ありがとう。では、以上で報告事項を終了する。

以上で本日の日程は全て終了した。これをもって、平成 26 年第 4 回教育委員会定例会を閉会する。

閉会 午後 2 時 38 分